

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続地殻大型地震推定前兆続報 10/27±可能性検討中 10/17±前兆終息要確認

2008年07月より出現しだし、過去例中最長の7年3ヶ月と云う長期に渡って前兆が継続しているNo.1778前兆の続報、現況報告です。右図は2008年の初現から2015年10月現在迄のNo.1778前兆群の出現形態を簡単に表した全体像です。●: 極大 —: 関連前兆出現期間を表します。

現在迄に8万-7に別れた前兆群が出現しています。各万-7の前兆時間変化から求められた時期(通常なら地震発生時期に当たります)に、次万-7の初現や極大が出現してきました。前兆が終息しないと発生日とはなりません、次万-7に移行するかどうかは、万-7途中では判断できなかったため、各万-7から推定される時期に発生となる可能性も検討せざるを得ませんでした。但し、発生となる場合には、いつ迄に前兆終息が確認されることが必要と云う条件を必ずつけて参りました。

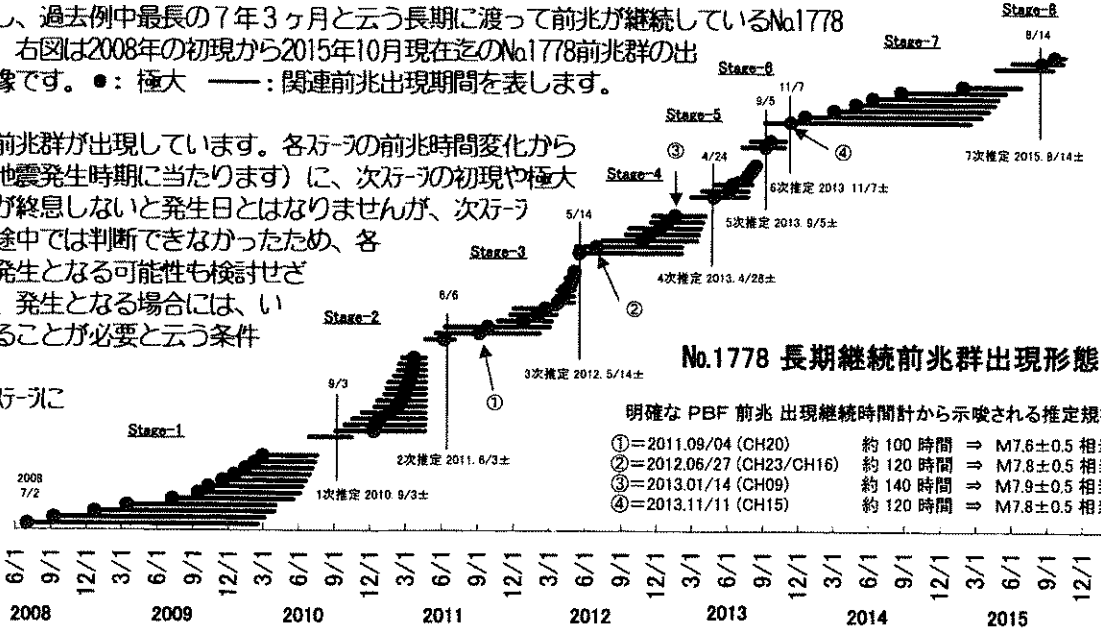
実際には、各万-7から次万-7に移行する際、前兆が終息せず継続したため、推定時期前には、推定された時期に発生とはならないことを報告し、この7年の間、発生日を確定したことはありませんでした。現在は右図の一番右上端に当たる万-78を進行中と云う認識です。

10/7段階では、10/15±(この可能性は低い記)と10/25±の可能性を考えました。翌10/8以降の実験観測情報では、BT周期性とCH12特異終息からの、10/15±の可能性は否定し、10/27±の可能性を報告済。

10月17日±に前兆終息となるか?

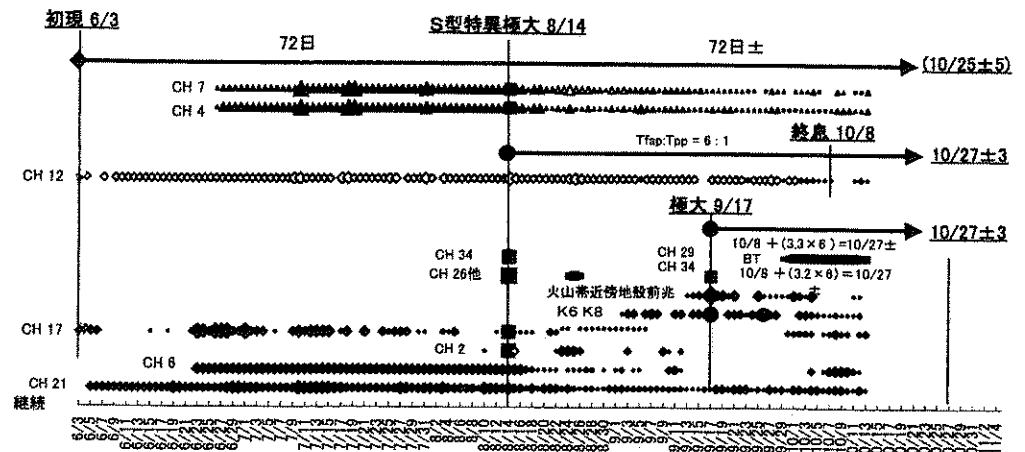
長期継続したCH12特異が10/8終息したため、不確実ですがTfap:Tpp=6:1 経験則を使用し、10/27±の可能性を考えました。またCH34の基線幅増大BT周期的変化とCH29の同様変化から、同じ10/27±が計算されます。CH29BTとCH06特異は既に終息していますが、CH12特異は弱く再び出現。10/17±迄出現の可能性あります。

現在段階で可能性が示唆される10月27日±が本当に発生時期となる場合には、直前特異出現の可能性もありますが、9/17極大に対する前兆終息が、10/17±に確認できる可能性があります。10/17±に前兆終息変化が確認できる迄は、現在の推定時期は確定ではありません。現認識が間違っている可能性もあります。※他に関東直下、東海、東南海、南海等の巨大地震が推定される前兆は観測されておりません。



No.1778 長期継続前兆群出現形態

明確な PBF 前兆 出現継続時間計から示唆される推定規模
①=2011.09/04 (CH20) 約100時間 => M7.6±0.5 相当
②=2012.06/27 (CH23/CH16) 約120時間 => M7.8±0.5 相当
③=2013.01/14 (CH09) 約140時間 => M7.9±0.5 相当
④=2013.11/11 (CH15) 約120時間 => M7.8±0.5 相当



上図: No.1778前兆群第8万-7詳細前兆出現状況図。上の関係認識が正しいか否かは判りません。8/14, 9/17極大に対する直前特異出現の可能性もあるため、10/27±が正しい場合でも10/17±に全前兆終息とはならない可能性も有。しかし10/27±発生が正しい場合には10/17±に幾つかの前兆終息が確認できる可能性有。10/23±迄は直前特異出現の可能性有。

- ◆推定領域: 右図 大線内領域=大枠推定領域 斜線域=可能性が考え易い参考推定領域
- ◆推定規模: M7.8 ± 0.5
- ◆推定時期: 前兆終息が確認された時点で計算。続報で修正可能性=10月27日± [10月17日±に前兆終息が条件] (※10月23日以降前兆継続の場合は、11月以降の可能性有) (その場合は、10月23日以降に前兆状態を鑑み再考続報)
- ◇推定地震種: 震源浅い(数km~20km±) 日本列島地殻地震
- ◇推定発生時刻: 午前9時±1 (又は午後6時±3) (※発生時刻推定はBTの日々変化時刻より)



Copyright 2015 YSBO 八ヶ岳南麓天文台

※09月中旬にNo.1778以外で前兆を検知し、推定した地震は二つ。9/12の東京湾M5.2と浦河沖M5.4で、どちらも推定はほぼ良好。実験観測情報では日々他の活動前兆も報告しておりますが、本冊はNo.1778長期前兆の続報のみです。ご了承下さい。